

湯沢発電所の屋根崩落現場付近の積雪重量調査

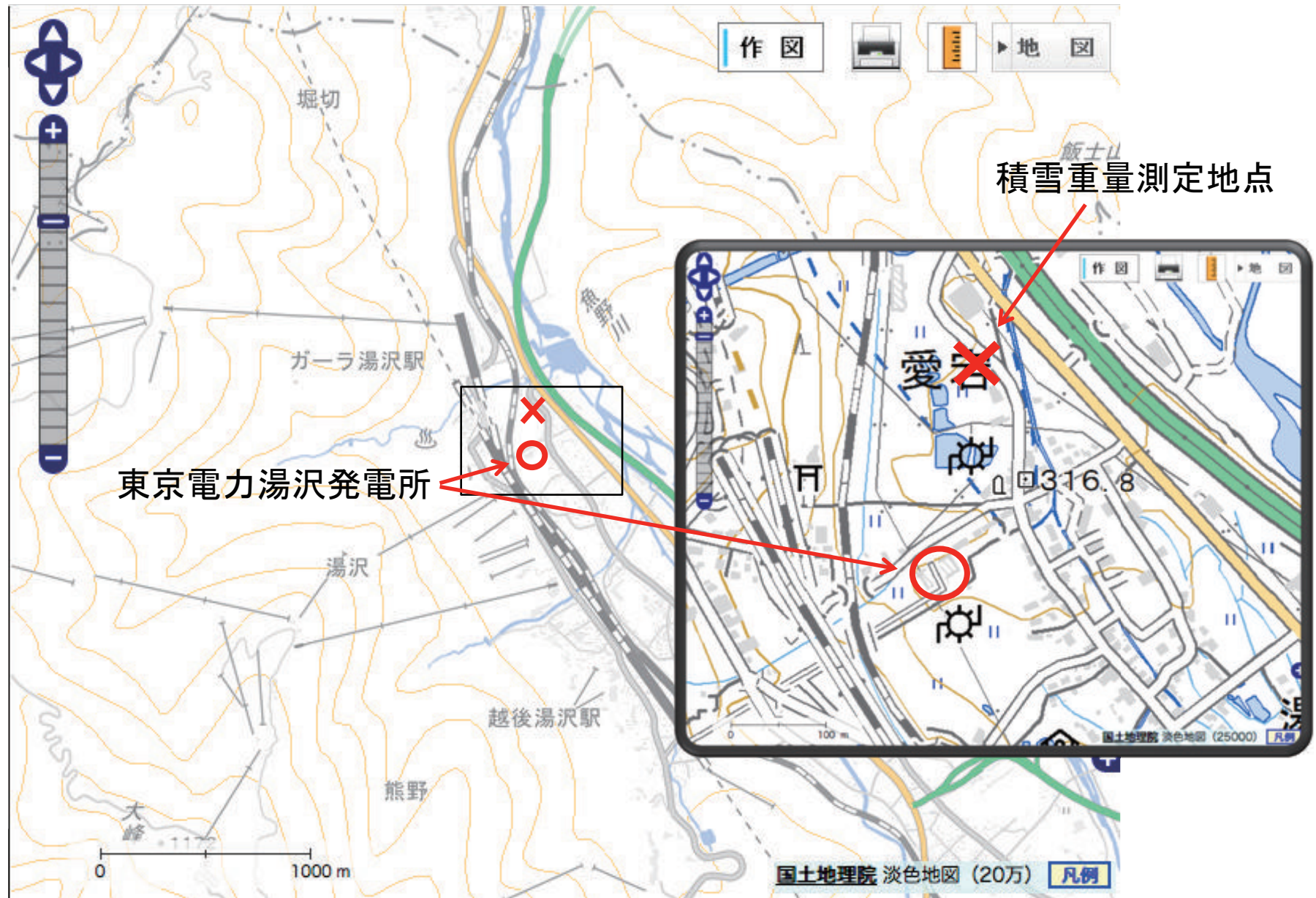
実施日： 2015年1月11日

実施者： 本吉弘岐、石坂雅昭

(独)防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター

2015年1月13日

屋根崩落のあった湯沢発電所(東京電力)の位置と積雪重量調査地点



湯沢発電所付近の様子



積雪重量測定場所

湯沢発電所から200mほど北側の平地

変電所(湯沢発電所はその奥)



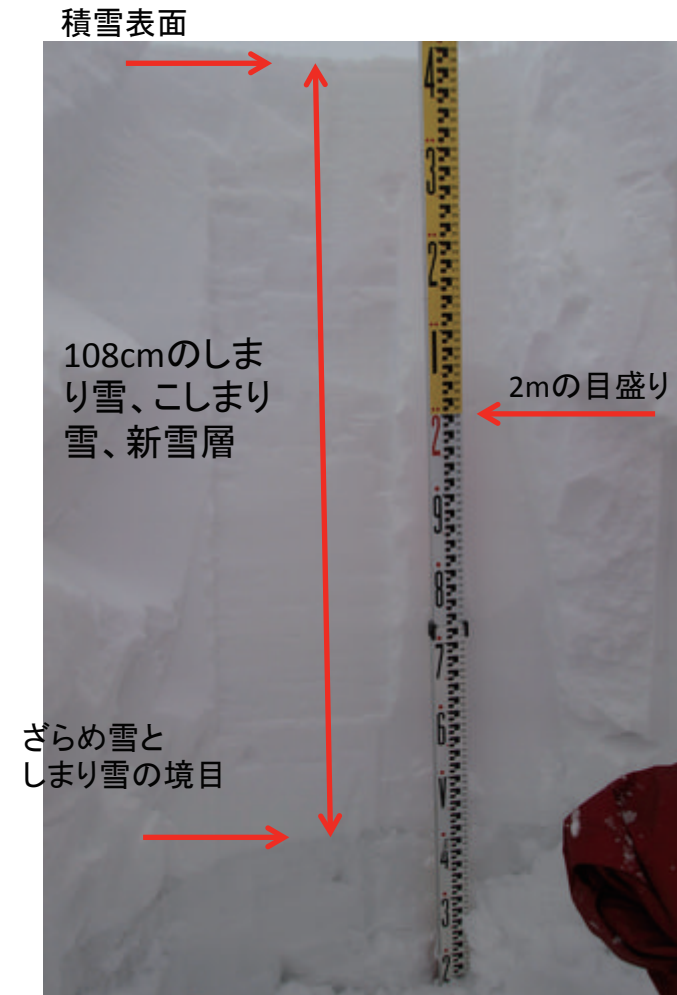
積雪重量測定結果（2015年01月11日 15:00~16:00）

神室式スノーサンプラーを用いて、積雪重量の測定を3回行った。

積雪深	サンプル重量	積雪重量	全層密度
245cm	1.54kg	770kg/m ²	314kg/m ³
245cm	1.60kg	800kg/m ²	327kg/m ³
242cm	1.56kg	780kg/m ²	322kg/m ³

積雪重量で770～800kg/m²、全層密度が314～327kg/m³という結果になった。右図のように、積雪表面から1.2mほど掘ったところ、137cmの高さより下にざらめ雪が現れ、その上部はしまり雪やこしまり雪、新雪であった。

報道によると、コンクリート3階の建築物の屋根1200平方メートル(25mx48m)が崩落したとされ、その場合、上記の積雪をそのまま当てはめると、およそ0.8*1200=960tの積雪が屋根に載っていた可能性がある。



参考資料： 気象庁アメダス湯沢観測所の気象データ

